

承認番号 RD6607-107

文書番号 19021870

2019年2月4日

PS-100 試験成績書
(材料別接着強さ試験結果)

株式会社タイルメント
技術開発センター

1. 目的

PS-100 の材料別接着性能評価を行なう。

2. 試験項目

2-1. 引張せん断接着強さ試験

3. 供試試験材料

3-1. 被着材料

AC(アクリル樹脂)

PC(ポリカーボネート樹脂)

PVC(ポリ塩化ビニル樹脂)

ABS(アクリルニトリル・ブタジエン・スチレン共重合体)

SUS(ステンレス板)

AL(アルミ板)

Zn-Fe(亜鉛鉄板)

Fe(鉄)

3-2. 下地材料

FB:フレキシブルボード

4. 試験方法

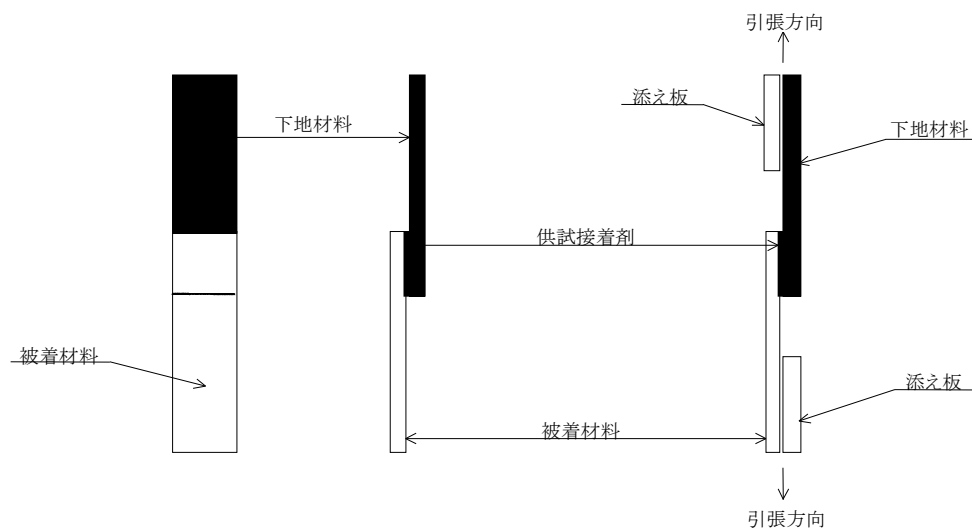
4-1. 引張り接着強さ試験

(1) 試験体の作製

標準状態(23±2℃、50±10%RH)において、被着材にヘラを用いて接着剤を塗布し0.8mmのスペーサーを入れ、試験材料に張り付け、引張りせん断接着強さ試験体とする。

(図 1)

図-1.引張せん断接着強さ試験体図



(2) 養生条件

標準養生:標準状態にて、7日間

(3) 測定条件

テンシロン万能材料試験機 RTF-2400 により、変位速度 3 mm/min にて測定を行なう。

5. 試験結果

表-1.引張せん断接着強さ

試験材料	PS-100 夏用		PS-100 冬用	
	接着強さ (N/mm ²)	破壊状態 (%)	接着強さ (N/mm ²)	破壊状態 (%)
AC×FB	1.25	B55C45	1.09	C100
PC×FB	1.37	C100	1.13	C100
PVC×FB	1.34	C100	1.14	C100
ABS×FB	0.84	B100	0.59	B100
SUS×FB	1.21	B35C65	1.01	C100
AL×FB	1.27	B5C95	0.97	C100
Zn-Fe×FB	0.97	B60C40	1.07	C100
Fe×FB	1.08	B90C10	1.13	C100

破壊状態の説明

B・・・被着材の界面破壊

C・・・接着剤の凝集破壊

本結果より、試験に用いた試験材料に対する接着強度としては、接着性において満足する結果であると考えます。

●本試験成績書の記載内容は、当社の試験データを基に作成し、十分信頼し得るものと確信しておりますが保証値ではございません。現場施工においては施工箇所環境・使用材料・施工条件などが異なりますので、確実な施工を行う為にも施工前に用途・条件などをご自身で十分ご検討ください。